

令和6年度富山県原子力防災訓練 評価結果報告書

2025年3月



(株) 総合防災ソリューション

目 次

1	訓練評価の概要	1
(1)	評価の目的	1
(2)	評価の方法	1
2	訓練項目別自己評価結果	3
(1)	災害対策本部等の設置運営訓練	3
(2)	県現地災害対策本部及び志賀オフサイトセンターの設置運営訓練	4
(3)	緊急時通信連絡訓練	5
(4)	住民の屋内退避、一時移転訓練	6
(5)	一時集合場所参集・安定ヨウ素剤緊急配布訓練	6
(6)	避難退域時検査の実施訓練	7
(7)	避難所開設・運営訓練	10
(8)	緊急時モニタリング訓練	11
(9)	交通誘導・警戒警備訓練	12
(10)	社会福祉施設における屋内退避訓練	12
(11)	被ばく医療措置訓練	13
(12)	複合災害対応訓練	13
3	評価員評価の概要	14
(1)	全般	14
(2)	災害対策本部等の体制確立	14
(3)	災害対策本部（本部室）の運営	15
(4)	防護措置の実施	16
(5)	防護措置以外の活動	16
(6)	その他	17

1 訓練評価の概要

(1) 評価の目的

令和6年度富山県原子力防災訓練を通して、原子力災害に関する防災体制の実効性の確認及び地域防災計画や避難計画の検証並びに改善に資することを目的とする。

(2) 評価の方法

令和6年11月24日（日）に実施された訓練を対象に、訓練参加機関による自己評価及び原子力防災に関する最新の知見を有する者による外部評価（第三者評価）を実施した。訓練項目別の評価の実施の有無を表1-1に示す。

本訓練の評価にあたっては、内閣府（原子力防災担当）が策定した「原子力防災訓練ガイダンス 訓練の企画、実施、評価及び改善のあり方」（令和2年3月）を参考にした。

表1-1 訓練評価の実施の有無

訓練項目名	自己評価	外部評価
①災害対策本部等の設置運営訓練	○	○
②県現地災害対策本部・志賀オフサイトセンターの設置運営訓練	○	—
③緊急時通信連絡訓練	○	—
④住民の屋内退避、一時移転訓練	○	—
⑤一時集合場所参集・安定ヨウ素剤緊急配布訓練	○	—
⑥避難退域時検査の実施訓練	○	—
⑦避難所開設・運営訓練	○	—
⑧緊急時モニタリング訓練	○	—
⑨交通誘導・警戒警備訓練	○	—
⑩社会福祉施設における屋内退避訓練	○	—
⑪被ばく医療措置訓練	○	—
⑫複合災害対応訓練	○	—

ア 自己評価

自己評価は、各訓練拠点で訓練直後に実施された訓練参加機関による振り返り等を基に、各訓練における「良好な事項」及び「課題」を抽出した。

イ 外部評価

外部評価は、富山県防災危機管理センターで行われた災害対策本部等の設置運営訓練を対象に、下記の通り評価員を2名配置した。

【評価員】

(株) 総合防災ソリューション 代表取締役 菊池 政巳
(株) 総合防災ソリューション 顧問 山本 忠雄

評価は、評価チェックシートに基づいて活動を記録し、訓練における「良好な事項」及び「改善すべき事項」を抽出した。評価項目は以下の通り。

【評価項目】

- ① 全般
- ② 災害対策本部等の体制確立
- ③ 災害対策本部（本部室）の運営
 - ・ 防護措置に課する情報等の共有、各班・関係機関等との連携
 - ・ GE 防護措置(案)・OIL2 防護措置(案)の作成
 - ・ 本部員会議等における防護措置(案)の承認
- ④ 防護措置の実施
- ⑤ 防護措置以外の活動
- ⑥ その他

2 訓練項目別自己評価結果

本章では、訓練項目ごとに当該訓練の主な特徴を整理するとともに、訓練活動や訓練方法の「良好な事項及び助長策」と「課題及び改善策」について自己評価と外部評価の結果を整理する。

(1) 災害対策本部等の設置運営訓練

□訓練の概要

緊急時における国、県及び氷見市等の防災業務関係者の応急活動体制及び指揮系統の確立を図るため、災害対策本部等の設置運営訓練を実施した。

- ・防災危機管理センターにおいて大型マルチディスプレイや映像情報システム等の機能を活用した災害対策本部運営や本部員会議の開催
- ・コントローラーを配置し、様々な状況付与に基づく実災害を想定した図上訓練
- ・TV会議システム等による国や志賀OFFC、氷見市等との情報共有
- ・映像伝送システムにより、オペレーションルームや本部員会議の状況を氷見市とリアルタイムで共有



○良好な事項及び助長策

- ・図上訓練開始前に、総務班から原子力防災の事態区分等を示した説明があったのでわかりやすかった。関係者に事前提供できればなおよい。

⇒【訓練・研修の充実】

原子力防災の事態区分等の事前研修や継続した訓練により、原子力防災における事態区分に応じた活動内容の周知を図り、防災関係機関との一層の連携強化を図る。



- ・4階オペレーションルームの画面により災害対策本部の状況や画面前の大きな地図で住民の移動状況や派遣等説明されていたのが分かりやすかった。
- ・5階本部員会議室（部局長）と4階オペレーションルーム（部局連絡員）の間でチャットを用いてリアルタイムに情報共有および会議場で報告することができた。
- ・各機関の動きを理解することができ、業務を円滑に実施できた。



⇒【訓練・研修の充実】

訓練における資機材を使用した情報共有などを継続的に行うことにより、原子力防災における活動内容を充実させ、防災関係機関との一層の連携強化を図る。

⇒【施設・機材の習熟】

防災危機管理センターの施設・機材の習熟訓練を継続し、原子力防災における各種情報の共有を促進し、防災関係機関との更なる連携強化を図る。

●課題及び改善策

- ・訓練内容が短時間で分量が多かったことから、完全なとりまとめができなかった。取りまとめ資料のフォーマットの事前設定や、簡素化等工夫の余地があると感じた。

⇒【訓練・研修の充実】

報告資料のフォーマットについて改善を図るとともに事前に周知し、漏れのない報告について訓練等の場を通じて習熟を図る。

- ・ペーパーレスのため、放射線のモニタリングデータを口頭で伝達した。正確な情報伝達のため、紙使用の必要性を感じた。

⇒【訓練・研修の充実】

共有する情報等については、BOX への格納のみとするのか、マイク放送により BOX での確認を徹底するなど、内容に応じた周知要領について改善を図るとともに、訓練等の場を通じて習熟を図る。

- ・普段使っている PC を持参できるようにしてほしい。

⇒【資機材の整備】

部外 PC の使用については、セキュリティー対策などを踏まえ改善を図り、防災関係機関による BOX 活用をより促進させ、防災関係機関との更なる連携強化を図る。

- ・BOX の不具合があったが、共有方法を検討いただくとともに、システムを使用できないときでも活動できる工夫が必要と感じた。また、BOX について普段使いしておらず、うまく使用できなかった。

⇒【訓練企画の充実】

BOX 活用の習熟度合いを踏まえ、BOX などのシステムが使用できない状況における災対本部や本部室の活動について訓練できる想定を盛り込むなど、継続した訓練企画の改善を図る。

- ・5 階本部員会議で、TV 会議上、本部長の声がとぎれとぎれになっていた。また、2 回目会議の際、中継での総務班報告ができなかった（4 階カメラを使って 5 階へ報告）。

⇒【資機材の整備】

TV 会議システムや映像情報システムなどの機能について、操作マニュアルの整備、担当職員の複数配置、事前点検の徹底などを通じ不具合の改善を図る。



- ・4 階対策本部と 5 階本部員会議のシナリオが違っている部分があった。報告で混乱が生じる可能性があるため、シナリオの整合を図る必要があると感じた。

⇒【訓練企画の充実】

石川県想定と富山県想定では、それぞれの訓練目的や一時移転地域などが異なるため、必ずしも一致した想定とするのは難しいところがあるが、プレーヤーが混乱しないように継続した想定の改善を図る。

（２）県現地災害対策本部及び志賀オフサイトセンターの設置運営訓練

□訓練の概要

県、氷見市、石川県、国、防災関係機関及び原子力事業者等が志賀オフサイトセンターに参集し、実際に状況判断を行いながら、緊急事態対応を確認した。

- ・志賀オフサイトセンターへ副知事を派遣し、県現地災害対策本部を運営
- ・同センターに設置される合同対策協議会等の参画による国の各機能班員としての活動を通じた志賀オフサイトセンターの運営



○良好な事項及び助長策

- ・特に大きな問題も無く、国、県、市の連携要領の確認ができた。
- ・各機能班や緊急時モニタリングセンター（EMC）との情報伝達体制を確認できた。
- ・氷見市から派遣された総括班の方は、統合防災ネットワークシステムの操作要領に慣れており、スムーズに各種作業が実施できていた。

⇒【訓練・研修の充実】

継続した訓練や研修などによる統合防災ネットワークなどの習熟、関係機関等との連携要領の確認により、災害時における活動や各種業務の更なる円滑化を図る。

●課題及び改善策

- ・ZOOM 接続用に志賀 OFC に持参した PC の音声を通じず、職員のスマホを併用し対応した。

⇒【資機材の整備】

資機材については、事前の機能確認や施設内での点検などを通じ、不具合の改善を図る。

（３）緊急時通信連絡訓練

□訓練の概要

原子力事業者や国、県内市町村等の防災関係機関に対して、非常時の情報伝達が確実かつ迅速に行われるよう、通信連絡訓練を実施した。

- ・北陸電力からの通報や国の避難指示等を氷見市はじめ県内各市町村・消防本部等に伝達

○良好な事項

- ・災害発生のタイムラインに沿って、報道発表・県民への問合せ等的確に対応することができた。
- ・ペーパーレス化により、状況付与に対する対応策をすぐに所定のフォルダに保存することができ、省力化につながった。

●課題及び改善策

- ・国、石川県、北陸電力等や市町村等との通信連絡訓練について、可能であれば、市町村など現地から出てきた要望を内容に応じ、OFC 県現地災害対策本部を通じて、関係機関に伝達する訓練も行うことを検討した方がよいのではないかと。

⇒【訓練企画の充実】

災害対策本部等の設置運営訓練との接続の可能性や訓練効果なども踏まえ、訓練想定での改善を図る。

- ・指定報道機関への通信連絡について、現状実施要領に基づき FAX のみで行っているが、手段の多様化を図るため、電子的提供（メール送付）を追加していただきたい。

⇒【訓練・研修の充実】

送信の確実な着信確認や確認漏れ防止などの観点も踏まえ、実際の通信連絡要領の改善を図る。

(4) 住民の屋内退避、一時移転訓練

□訓練の概要

緊急時における対応を円滑に実施するため、地域住民参加のもと、住民の屋内退避、一時移転訓練を実施した。

- ・ 自宅が全壊した想定で一部の住民が一時集合場所において屋内退避訓練
- ・ 氷見市内 UPZ 全域を対象とした屋内退避訓練（窓等の閉鎖、情報の収集、必要物資の確保）を実施
- ・ Yahoo!防災速報アプリや氷見市公式 LINE を活用した住民広報により、屋内退避の実施方法を周知
- ・ 速川、久目地区を対象とした一時移転訓練を実施
- ・ 県バス協会に要請し、移動手段を持たない住民へバスを配車・運行
- ・ 映像伝送装置により、遠隔地（県及び氷見市災害対策本部）へ正確な一時移転訓練の実施状況等を報告



○良好な事項

- ・ 特になし

●課題及び改善策

- ・ 訓練対象地区に参加をお願いした際、連絡が遅いと苦情があった。（先に決まっていた地区の行事と重複し、参加者を集めにくかったとのこと。）

⇒【訓練企画の充実】

訓練対象地区への連絡等については、努めて早く連絡し、原子力防災訓練に参加しやすいよう改善を図る。

- ・ 避難退域時検査場所から避難所まで想定よりも時間を要したのではないかな。

⇒【訓練企画の充実】

訓練で得られた教訓等を踏まえ、実際の時間配分など想定の改善を図る。

(5) 一時集合場所参集・安定ヨウ素剤緊急配布訓練

□訓練の概要

原子力災害時に住民が参集する一時集合場所を開設・運営するとともに、安定ヨウ素剤の配布の指示がなされた場合に、住民に適切に配布されるよう訓練を行った。

○地域や一時集合場所の特性に応じた安定ヨウ素剤の配布

地区	一時集合場所	避難方法	配布方法
速川	旧速川小学校	バス・自家用車	集合（対面） ドライブスルー
久目	旧久目小学校	バス・自家用車	集合（対面）



○旧速川小学校

- ・ 速川地区の住民は、避難計画に基づき、旧速川小学校に集合
- ・ 円滑な避難の実施のため、住民は、自家用車から降りずに、安定ヨウ素剤の配布を受ける（ドライブスルー配布）

○旧久目小学校

- ・久目地区の住民は、避難計画に基づき、旧久目小学校に集合
- ・（公社）県医師会及び（公社）県薬剤師会の協力の下、一時集合場所で安定ヨウ素剤の説明及び配布
- ・市は、保管している薬品保管庫から安定ヨウ素剤を搬出

○良好な事項

- ・ドライブスルー配布の際、予め事故防止の観点から、車両の停車は1回とし、受付、説明、薬剤配布及び医師への相談を同一場所で行うことができた。
- ・住民参加型の訓練は反復して行うことで災害発生時の行動が身に付くので良い。
- ・担当の氷見市職員に時間通り準備いただいていたので、防護服の着用、安定ヨウ素剤の説明・配布等は問題なく実施することができた。
- ・概ね予定通り問題なく行えた。また、目張り訓練が見れたのも良かった。



●課題及び改善策

- ・安定ヨウ素剤配布場所は地域の小学校では無く、例えば氷見市から広域避難する際の通過ポイント（高速出入口や主要道路沿いの大型施設駐車場等）に配置した方が良いのではないかと考える。

⇒【訓練・研修の充実】

安定ヨウ素剤は服用のタイミングが重要であることから、避難のなるべく早い段階で配布するべきと考えているが、総合的な見地から継続的に検討する。

- ・安定ヨウ素剤の保管庫からの出庫において、実際に震災が起こったら、どこから連絡が行き、伝達経路がどうなのか？が不明だった。

⇒【訓練・研修の充実】

現場での実動訓練に加え、現場にどこから指示等がどんな手段でされるのかなど、実際的な手順なども考慮し改善を図る。

（６）避難退域時検査の実施訓練

□訓練の概要

一時移転の対象となった住民や車両等の汚染状況を確認するための避難退域時検査を適切に実施できるよう訓練を行った。

○氷見運動公園において、避難退域時検査を実施（避難計画上の仏生寺公民館及び赤毛コミュニティーセンターが使用不可との想定とし、氷見運動公園で検査）

・車両検査

避難者が乗車する自家用車・バスをゲート型モニタ等で測定し、基準値を超過した自家用車・バスには、簡易除染を実施

・住民検査

避難者の体をサーベイメータで測定し、基準値を超過した場合は、脱衣や拭き取りによる簡易除染を実施



○避難退域時検査における業務手順から測定機器の使用方法までを実演した動画によりマニュアルを見える化し、訓練参加要員の対応力を向上

○良好な事項（全体）

- ・今回屋外テントで実施したことは、実際屋内で開催できないことも想定されるので、訓練としては経験値になったのでよかったと思う。
- ・実際に検査の流れを体験でき、大変参考になった。災害が起きた際はもっと混雑・パニックが予想できるため備えておきたい。
- ・実施要領及び関係機関との調整により、認識の統一を図ることができ、作業内容を適格に実施することができた。
- ・会場の地面に亀裂が入って、使用可能範囲が制限されていたにも関わらず、効率的な検査会場のレイアウトが構築出来ていたと思う。
- ・地震や原子力災害など本来は突如として発生するものなので、今回の急な変更には、少しだけリアリティー感が感じられ、実際はこの何倍ものスピードや労力で対応しなければならないことなのだろうと、想像できたのは良かった点だと思う。
- ・汚染された傷病者の搬送及び活動手順について隊内で確認することができた。



●課題及び改善策（全体）

- ・ポケット線量計に数値が出ている人がいた。携帯電話と別のポケットに入れる等の注意喚起があるとよい。

⇒【訓練・研修の充実】

研修や訓練前の事前説明などにより、検査時の留意事項を周知し継続的な改善を図る。

- ・状況付与カードは「正常」or「汚染」と記載されているが、マニュアルには40,000cpm「以下」or「超」と報告・記録することになっている。状況付与カードと記録票の記載を統一してはどうか。

⇒【訓練・研修の充実】

マニュアルに基づき状況付与カード記載内容を検討する。

- ・訓練が始まるまでの拘束時間が非常に長い。

⇒【訓練企画の充実】

訓練開始時間を考慮し、集合時間等を検討する。

○良好な事項（車両検査会場）

- ・車両サーベイ等は訓練前に模擬があったことからイメージがつきやすかった。
- ・検査員や除染員が車体や地面と身体を接触させる場面は見られず、適切な姿勢で作業にあたっていた。
- ・訓練全体として大きく改善すべき点は見られず、良好な訓練であった。他の自治体に比べても経験を積んでおり、全体的に工夫と準備が良くできていると感じた。
- ・各班、必要な操作方法についてまとめた資料をパウチして配布しており、検査員の理解を助ける工夫が見られた。天候不良時にも有効だと感じた。
- ・同グループ内の検査員は、マニュアルに従った方法で汚染検査が実施できていた。手順・作業分担・測定箇所などについて、活発にコミュニケーションをとり、助け合いながら実施できていたと感じた。
- ・複合災害の発生等、あらゆる状況を想定し、鳥取県から車両用ゲート型モニタの借用及び機器



操作要員の派遣を受け、検査を実施し、他県からの受援も想定した訓練を実施できた。

●課題及び改善策（車両検査会場）

- ・検査会場入口で車両が2レーンに分かれるが、レーン間が広く空いていたため、避難車両が誤ってその隙間に侵入する場面が見られた。
- ・状況付与カードの文字が小さく、ダッシュボード上にあると一瞬で読み取れるようなものではなかった。汚染状況についても、文字が小さく赤文字でも読み取りづらかった。
- ・代表者検査を「運転手」と指定していたが、国の「原子力災害時における避難退域時検査及び簡易除染マニュアル」には「避難行動が同様の行動をとった集団のうちの1名」と記載されている。
- ・車両確認検査の記録票では、基準値（40,000cpm）以下の場合においても、測定値を記載するフォーマットになっている。基準値（40,000cpm）以下の記録については、「－」など記載省略又は簡易にできれば効率的に記録できるといった。
- ・サーバイメータの持ち手部の養生が不十分であり、持ち辛かった。測定の際、誤って落としてしまい車両が傷つく可能性がある。
- ・測定の際、ガウンの下部が車両に接触する。風に煽られガウンが車に接触してしまう。
- ・車両等の汚染状況に応じ、車両確認検査員（簡易除染員含む）の手部汚染が頻繁に生じる場合は、ゴム手袋二重装備も想定される。操作性を認識するためにも訓練で着用する機会があっても良いと考える。



⇒【検査要領等の習熟】

研修や訓練前の事前説明などにより、実動訓練での気づきなど検査時の留意事項を周知し継続的な改善を図る。

○良好な事項（住民検査会場）

- ・住民が一斉に来られた際も指定検査の測定場所が3つあったため、割とスムーズに案内や測定を実施できた。
- ・検査会場内の椅子・机等を養生しており、汚染対策が適切に施されていた。
- ・測定を続けながら、次の測定部位について住民へ上手く声掛けをされていた。
- ・簡易除染は2カ所の処置室がパーテーション等により間仕切されており、プライバシー保護の観点からも良好であった。また、除染員も男性と女性が配置されており、住民へ配慮されていた。
- ・待機者が増えると、測定の仕方や速度に影響が出る場面もあったが、助言後は適切に測定されていた。



●課題及び改善策（住民検査会場）

- ・指定箇所検査場所又は確認検査場所から通行証配布場所へ向かう際、経路に戸惑う住民が多々見受けられた。
- ・住民検査での簡易除染エリアにおいて、除染方法（手袋の外し方、カップの脱衣方法、ウェットティッシュでの拭き方）の説明用資料（ラミネート加工）があったが、B1サイズのポスターのように大きくシシステムパネルを設置して見やすいようにしてはどうか。
- ・時間のかからない受付が3机×住民2人で、時間のかかる指定検査が3机×住民1人では行列になって当然だと思う。参加者もストレスとなっていたように見えた。（高齢者もいるので休憩スペースか列に椅子を用意した方がよい）
- ・確認検査ブースが混雑した際に、指定箇所検査から応援をするよう指摘された。実際にやって



みたが、打ち合わせを行っていなかったので応援者がどこを検査したのかわからずかえって煩雑になってしまった。指定箇所検査・確認検査においてリーダーを決め適宜対応できれば良いと思う。

- ・配布カードで放射線基準値を超えた想定の方、負傷している想定の方への役割説明を受付係において、しっかり伝達していただきたい。（よく分かっていない住民がほとんどだった）
- ・検査後の住民に「右手が汚染している」等の伝え方をされている方がおり、住民への心理的な不安が懸念される。

⇒【検査要領等の習熟】

研修や訓練前の事前説明などにより、実動訓練での気づきなど検査時の留意事項を周知し継続的な改善を図る。

- ・避難退域時検査簡易マニュアルに救急要請、搬送手順等の記載が必要と感じた。

⇒【マニュアルの見直し】

実動訓練における教訓事項など、避難退域時検査簡易マニュアルへの反映について検討する。



（７）避難所開設・運営訓練

□訓練の概要

緊急時における住民の避難受入れを円滑に実施するため、関係機関が連携し、避難所の設置・運営の訓練を実施した。

- ・第１避難先（県西部）での受入れ困難な場合を想定し、バックアップの第２避難先（県東部）で受入れ
- ・県防災士会による自主的な避難所の運営に係る避難住民向け防災講演会「多様性に配慮した避難所運営について」の開催
- ・原子力防災に関するパネル展示
- ・段ボール間仕切り及び段ボールベッド等の組立て・設置



○良好な事項

- ・事前及び当日の準備等は適切であり、概ね計画どおり避難者を受け入れることができた。
- ・一次受付、二次受付、パネル展示ブース、避難所運営訓練と避難住民の動線がスムーズだった。発熱者の別室への移動もスムーズに行えた。
- ・避難住民バラバラの行動ではなくバス単位での行動だったため、パネル展示などの説明時間の確保や、全員そろってから段ボールベッドの組立説明時間が確保できるスケジュールであり良かった。（説明時間がしっかりと確保できた。）



●課題及び改善策

- ・原子力災害に限らず、広域避難の際の避難所の開設主体、避難所の運営主体の明確化が必要。特に、避難住民は避難所についての地の利がなく、避難直後からの運営主体は困難と想像される。避難所の開設主体は当該自治体職員が行い、避難住民の方が運営主体を担えるようになるまで、当該自治体職員による運営、あるいは富山県防災士会などがお手伝いに入るスキームなどが必要ではないか。



- ・避難所運営訓練には開催地の自治振興会や自主防災会も参加して実施できると良いのではないかな。

⇒【受入自治体等との連携】

避難者を送り出す氷見市と受け入れる自治体やボランティア団体等において、避難所開設・避難者受付・避難所運営・物資支援など、どのような役割分担を行うかなど検討する。

- ・広域避難の場合は、車中にて避難住民の名簿作成ができると良い。避難所へ着いてからの受付がスムーズに行える。

⇒【計画・マニュアルの見直し】

広域避難における要領について、実動訓練での気づきを避難計画やマニュアルへの反映を検討する。

(8) 緊急時モニタリング訓練

□訓練の概要

緊急時モニタリングについて、関係職員の配備、関係機関との情報連絡及び測定技術等の習熟を図るため訓練を実施した。

- ・スマートフォン等を利用した情報共有によるモニタリングポストの早期復旧
- ・緊急時モニタリングセンターに職員を派遣し、国の指揮の下、モニタリングポストやモニタリングカーによる空間放射線量率の測定等を実施



○良好な事項

- ・OFCでは、必要な連絡経路、情報集約方法が事前に整理されており、手続きに迷うことがないので、スムーズに対応できた。
- ・連絡班と現地の活動班との連絡手段にチャット機能を利用することで、屋外活動の際の状況説明を口頭だけではなく画像を利用でき、より正確に状況が把握できた。また、既読確認できたので、情報共有が円滑に実施できた。

●課題及び改善策

- ・防護服の着用・脱衣、使用後の汚染した防護服等の片付けなど、手順の掲示だけでは分かりにくいことから、補助者を増員するなど、役割・配置を再検討する。

⇒【役割・配置の見直し】

実動訓練での気づきなどに基づき、緊急時モニタリングにおける役割・配置を再検討する。

- ・車両に取り付ける「訓練中」マグネットは1枚しかないが、車両の左右と後方の計3か所にも必要と感じた。住民の方が全員訓練を実施していると認識しているとは思えず、急に防護服を着た人が車から降りてくるとびっくりすると思うので、マグネットを追加し訓練していることをアピールできればと思う。

⇒【施設・機材の見直し】

車両に貼る「訓練中」マグネットの追加について検討する。

(9) 交通誘導・警戒警備訓練

□訓練の概要

富山県警察は、避難車両を避難所まで先導するとともに、避難経路の要所で交通規制を実施した。また、避難対象区域内の警戒による治安確保を実施した。

- ・一時集合場所から警察車両の先導による避難車両の誘導
- ・一時集合場所周辺における警戒の実施
- ・避難退域時検査場所の周辺道路等、混雑が予想される交差点での交通規制



○良好な事項

- ・特になし。

●課題及び改善策

- ・特になし

(10) 社会福祉施設における屋内退避訓練

□訓練の概要

UPZ内の社会福祉施設において、屋内退避指示を受けて、入所者の屋内退避訓練を行い、放射線防護対策の習熟を図った。

- ・社会福祉施設において、地震後に放射線防護施設の異常の有無を確認
- ・社会福祉施設において、屋内退避訓練を実施



○良好な事項

- ・特に大きな問題もなく、適格に訓練を実施できた。
- ・昨年3月に施設の陽圧化工事が完了し、電気・水道、ドア・窓・換気扇などの管理のやり方が大幅に変わったので、今回の訓練の前に誰でも簡単にわかる写真入りの「原子力災害が起こった場合の施設管理マニュアル」を作成し、理解を深めた。
- ・今回の訓練で訓練開始前に事前準備の時間を作って、設備の点検を行った結果、窓のクレセントなど今まで気づいていなかった不備な箇所がいくつか見つかった。

●課題及び改善策

- ・訓練開始時間が日曜日の9時前後ということもあり、施設にとっては一番多忙な時間で、参加できる人員が限られてくるのが最大のネックだった。

⇒【訓練企画の充実】

施設での訓練時間については、各施設に支障がない時間帯に実施するよう検討する。

(11) 被ばく医療措置訓練

□訓練の概要

原子力災害拠点病院における原子力災害医療派遣チームとの合同診療訓練を実施した。

- ・ 負傷し汚染した可能性のある住民への被ばく医療措置を実施



○良好な事項

- ・ 訓練評価者として、原子力災害医療・総合支援センターである広島大学の職員に参加いただき、手順の確認を行いながら訓練を進めることができた。
- ・ 被ばく傷病者が来院した際の対応を実際に見ることができ、被ばく医療への理解が深まった。

●課題及び改善策

- ・ 患者の転院等の連絡調整に係る訓練を行ったことがないことから、来年度以降は、訓練に加えていく必要がある。

⇒【訓練企画の充実】

患者の転院等の連絡調整については、実動訓練の実行の可能性を踏まえながら検討する。

- ・ 活動内容への理解や必要物品の準備について、準備不足が否めなかった。

⇒【訓練準備の実施】

訓練は、準備の段階からも得るものが多いことから、各防災関係機関における準備と調整などを促す。

(12) 複合災害対応訓練

□訓練の概要

地震により避難経路上の道路の寸断を想定した複合災害対応訓練を実施した。

- ・ 地震により道路が寸断し孤立集落が発生したため、自衛隊にヘリの派遣要請を行い、空路での避難を実施



○良好な事項

- ・ UPZ 内の実際に起こりえる不整地を利用して輸送適地の検証ができた。また、職員及び消防との現場での調整をすることにより、連携要領を確認できた。

●課題及び改善策

- ・ 訓練の制約上、離発着位置が同じとなったが、できれば別で設定していただければ訓練の質が向上するものと思料する。

⇒【訓練企画の充実】

ヘリの離発着地域については、地域の利用の制限もあり、可能な範囲で検討する。

3 評価員評価の概要

(1) 全般

ア 重点評価項目「BOXを活用した情報の共有・取り纏め・報告」

- ・BOX を使用した情報の入手・共有・記録などの手順を定め、各班・関係機関において情報の共有に努めていました。
- ・総務班が中心となり、会議報告内容等の取り纏めについて、各班・関係機関に BOX への格納指示や、格納された内容の取り纏めを行い、本部員会議資料の作成・報告に取り組まれていました。



イ 防災危機管理センターにおいて大型マルチディスプレイや映像情報システム等の機能を活用した災害対策本部運営や本部員会議の開催

- ・大型マルチディスプレイによる各種情報の表示及びオペレーションルームから本部員会議への報告など継続的に取組まれました。

ウ コントローラを配置し、様々な状況付与に基づく実災害を想定した図上訓練

- ・民家火災、孤立地域への物資輸送、海上転覆船などの防護措置以外の災害対応についても、関係機関と迅速に調整されました。

エ TV 会議システム等による国や志賀 OFC、氷見市等との情報共有

- ・TV 会議システムにより合同対策協議会への参加や県本部員会議への氷見市の参加が行われ、適切に情報が共有され円滑に防護措置の決定がされていました。

オ 映像伝送システムによりオペレーションルームや本部員会議の状況を氷見市とリアルタイムで共有

- ・映像伝送システムにより現地の各種活動状況をオペレーションルームなどの大型ディスプレイに放映し、各班・関係機関の現状認識に有効に活用されました。



(2) 災害対策本部等の体制確立

○良好な事項

- ・県、氷見市、関係機関の体制については、本部員会議での報告や総務班による BOX による共有や口頭での周知がなされていました。
- ・特に、知事から「富山県災害警戒本部（原子力）を設置する」との方針が示されたことを受け、08:37 には各班・機関を集め、警戒事態について情報の共有を行い、原子力災害防護措置の推移に応じた対応を図で示し、効果的に各班・関係機関との認識共有を図られました。



●改善を要する事項及び改善策

- ・緊急事態に伴う県・氷見市及関係機関の体制について、BOX での情報共有はなされていましたが、緊急事態宣言やこれを契機とした体制の確立は重要な局面であり、クロノロジーやホワイトボードへの記載やマイク放送などにより、迅速・確実な周知と事態の深刻さを共有する着意が必要と思います。

(3) 災害対策本部（本部室）の運営

ア 防護措置に関する情報等の共有、各班・関係機関等との連携

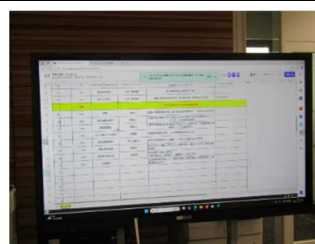
○良好な事項

- ・大型モニタの分割画面を活用した現場状況やクロノロジーなどの表示のほか、総務班や各機関リエゾン、情報入手の都度、措置記録票等を作成しBOXに格納、自衛隊・気象台・河川国道事務所などはマイク放送も行い情報の共有に努められました。
- ・訓練の終始を通じ、大型ディスプレイ前の地図を囲み、総括班（情報収集Gp）と氷見市リエゾンや各機関リエゾンとの被害情報等の共有、道路の迂回路の確認、避難経路の選定等の調整などが頻繁に実施されていました。



●改善を要する事項及び改善策

- ・事象の進展に伴う県対策本部の体制の通知や関係機関等の体制確認など、防護措置(案)検討に重要事項がクロノロジーに記載されませんでした。クロノロジーは、各班・関係機関が共通認識の基に活動するためには重要であり、ルールを定め漏れなく記載するなど更にクロノロジーを有効に活用する着意が必要と思います。
- ・災害対策は県職員の能力や対応力のみでは限界があることから、関係機関の協力を得て対応することが不可欠です。リエゾン会議や関係者ミーティングなどにおいて、例えば気象台リエゾンから「天気と今後の原子力災害の影響」解説など発言機会を設け、更に関係機関リエゾンの連携・協力する着意が必要と思います。



イ GE 防護措置(案)・OIL2 防護措置(案)の作成

○良好な事項

- ・総務班（総括調整Gp）から資料作成やBOXへの格納指示が適切になされ、本部員会議資料は孤立地域への対応、社会福祉施設入居者の移転など住民避難等に係る突発案件なども盛り込まれるとともに、事態の進展に伴う対応の考え方も示されていました。
- ・関係者ミーティングを9回実施するなど総括班（総括調整Gp）の主導により、防護措置の実施に係る各種調整・検討が精力的に行われました。特にUPZ等地域内の住民避難にかかる判断・指示や現場からの要望等に対し、各班・関係機関における処置事項について実地的な検討・調整が適切に行われました。



●改善を要する事項及び改善策

- ・知事指導事項の情報共有については、BOX以外の手段による共有がありませんでした。知事や局長の指導事項は、各班・関係機関リエゾンそれぞれが活動の焦点を認識し活動するための基になるものです。BOX以外の手段としてマイク放送、リエゾン会議、クロノロジーへの記載などにより徹底する着意が必要と思います。



- ・訓練では「原子力防災ハンドブック」の経路図等検討の基礎となる資料が途中から図上に置かれ活用されました。予め一時移転避難計画（避難地区毎の避難経路・一時集合場所、避難退域時検査場所、避難所等）を展開した地図、避難地区毎の住民数・世帯数などの基礎資料を事前に準備し、限られた時間の中で効率的に検討・調整する着意が必要と思います。



- ・本部員会議資料の作成では、限られた時間の中で取り纏めることが求められます。予め定型様式を定め、各班・関係機関が入力する項目を事前に承知しておくことが有効です。本部員会議資料の作成の手引きなどを作成し、各班・関係機関等と共有することも検討してはと思います。

ウ 本部員会議等における防護措置(案)の承認

○良好な事項

- ・TV 会議システムや大型ディスプレイなどを活用し、国、志賀 OFC、氷見市等と円滑に情報共有が図られ、オペレーションルームからの総務班長の状況報告、関係部局等からの要点を絞った報告により、適切に各防護措置(案)の承認が行われました。



●改善を要する事項及び改善策

- ・第2回富山県災害対策本部員会議において、機材操作不十分によりオペレーションルームからの報告がなされませんでした。知事には、整理された情報が円滑に報告された中で防護措置(案)などの判断をして頂くことが重要です。機材操作担当の複数名配置や操作マニュアルの準備により、特定の担当者が不在でも防災危機管理センターの機能を使用できる体制が必要と思います。

(4) 防護措置の実施

○良好な事項

- ・総務班職員の派遣、災害救助班の社会福祉施設入居者移転、孤立地域住民のヘリコプター避難などの対応、投光器等の氷見市との調整、くすり政策班のヨウ素剤点検・備蓄確認など、現地の状況や要請に対し適切に検討・調整されました。
- ・石川県からの一時移転避難者対応依頼について、関係者ミーティングを開催し、氷見市避難者と咬合しない経路の選定、検査場所の能力や地積等から車両数や避難者数の受入れの検討・調整がされました。

(5) 防護措置以外の活動

○良好な事項

- ・民家火災、孤立地域への支援物資輸送、土砂崩れ対応などUPZ 内での活動のほか、UPZ 地域外での土砂災害、海上転覆船舶、国道 415 号倒木などの対応についても、総務班（総括調整 Gp）主催の関係者ミーティングにより、氷見市をはじめ警察、自衛隊、河川国道事務所などを迅速に集め調整が行われました。普段からの関係機関との連携が推察されます。

(6) その他

ア 訓練のあり方について

- ・本部会議資料の作成では、総務班（総括調整 Gp）から会議に間に合うよう BOX への格納指示がなされましたが、時間が余りにも少ないと感じられました。OIL2 一時移転避難計画(案)の調整・作成を焦点し、検討・調整など十分な時間を確保した想定とするなど、メリハリをつけた訓練想定について検討することも一案だと思います。

イ ホワイトボードの活用

- ・「ホワイトボードの活用方法」が記述されていたのは適切だと思いますが、ホワイトボードの数が、各班・機関の数に比して少なく、また各班・関係機関の使用区分が明確でなく、十分に活用されていないように見受けられました。ホワイトボードは、災害対策活動の必須アイテムであることから、各班・関係機関に少なくとも1つ準備するとともに、訓練前に活用方法について周知する着意が必要と思います。